

100円で売られているかもしれない激レアお宝レコード

広報委員の duty である飄々の原稿、また私の順番が回ってきました。もうあれこれ言い訳はしません。ここまできたら今回もビートルズで行かせていただきます。

「なんでも鑑定団」なんかをご覧になると分かりますが、コレクターが高い値段で買ったものに高い鑑定額がついても面白くもありません。高い値段で買ったものが二束三文になるのもオツなものですが、やはり一番面白いのは二束三文で手に入れたものに、とんでもない鑑定額がつくパターンですよ。

ビートルズのレコードは人気が高いので、すでに研究し尽くされた感があり（といっても実はまだまだ秘密もあるのですが）、非常に貴重なモノが二束三文で出てくるなんて事はそうそうないのが現実です。しかし唯一、日本のリサイクルショップなんかで二束三文で売られている可能性がまだわずかながら残されている日本盤激レアお宝レコードが一つありますので、ご紹介いたしましょう。それが1962年に日本グラモフォンから発売されたシングル「マイ・ボニー・ツイスト」(DP-1254)です。

このレコードがなぜそんなに価値があるのか？それを知るには少々知識が必要です。ビートルズはリバプールの大手レコード店 NEMS のオーナー、ブライアン・エプスタインにその才能を見いだされ、彼がマネージャーとして奔走したからこそ、あれほどまでの大成功を収めることになったのですが、ではなぜそのブライアンがビートルズをマネジメントする事となったのか？そこに

飄

々

広報委員

吉川 功一

このマイ・ボニー・ツイストが関係してくるのですが、そのいきさつは以下の通りです。

1961年当時、ビートルズはリバプールではそれなりに人気が出てはいましたが、当然世界ではまだ無名、というかイギリスでもまだまったくの無名、単なるリバプールのローカルバンドでした。当然食っていけるわけもなく、アラン・ウィリアムズというリバプールのとあるバーの支配人の差し金でドイツ・ハンブルグのナイトクラブで酔っ払いを相手に演奏する仕事を与えてもらうなどという、絵に描いたような下積み時代を過ごしておりました。そのハンブルグのナイトクラブ・トップテンクラブで、ビートルズよりは多少は有名になっていた歌手トニー・シェリダンのバックバンドを務める機会がありました。それをきっかけに、1961年6月にドイツで行われたトニー・シェリダンの新作レコードのレコーディングに呼ばれて、デビュー前のビートルズの演奏がはじめて正式に商業用レコードに刻まれることになりました。

そのレコードが1961年10月23日にドイツでのみ発売された「My Bonnie」(NH-24673)です。ただし、レコードの名義は Tony Sheridan and The Beat Brothers、単なるバックバンド扱いでビートルズの名前はクレジットはされませんでした。そして、後にマネージャーとしてビートルズをスターダムに押し上げることになるイギリス、リバプールのレコード店 NEMS オーナーのブライアンも当然ドイツでそんなレコードが発売されているなんてまったく知らないのでありました。

1961年10月28日、そんなブライアンのお店にリバプールに住んでいるレイモンド・ジョーンズなる青年が現れます。彼は言いました。「わが街リバプールのバンド、ビートルズがマイボニーとかいうレコードを出したらしいね。だからそれください」。

ブライアンは「わが街リバプールのビートルズ??だれそれ??」でしたが、一応はレコード店の店主ですから手を尽くして調べると、確かにマイボニーなるドイツのレコードが存在し、そこにあるビートブラザーズとかいうバックバンドがわが街リバプールのバンドらしいことを突き止めたのでありました。聞くところによると、彼らは今はリバプールに戻ってきており、近所のライブハウス・キャバークラブで演奏しているビートルズというバンドのことらしいことがわかったのです。

「リバプールではそこそこ人気らしいし、せっかくなんでビートルズとやらを一回見ておこう」とブライアンはキャバークラブに足を運び、初めてビートルズの姿を見たのでした。そして、見た途端にすっかりその魅力にとりつかれてしまい、「わが街のあのボーイズの魅力をイギリス中に知らしめてやる!」と勝手にマネージャーを買って出たのでありました。その後、見事にイギリスどころか世界中にその魅力を知らしめることになったことは今更説明するまでもないでしょう。

という事で、1961年10月23日にドイツ・ポリドールから発売のトニー・シェリダンのシングル「My Bonnie」(NH-24673)はビートルズの名こそないものの、彼らの歴史を語る上では最重要レコードの一つであり、そのドイツ初盤は歴史的遺産として扱われ、ビートルズコレクターなら一枚は持っておきたいレコードなのであります。もちろんプレミアがついてはいますが、頑張っ

て探せば、まあなんとか入手は可能です。

前置きが長くなりました。

・・と、本題に入ると見せかけて、まだ続きます。

その後、ビートルズは1962年10月5日にイギリスでEMIパーロフォンレーベルからデビューを果たし、1963年後半からイギリス国内で爆発的に人気が高まり、ついに1964年1月にアメリカでもNo.1をとり、同年2月に鳴り物入りでアメリカ上陸、エド・サリバン・ショーに出演しました。わが日本ではその流れを受け「ビートルズとかいうイギリスのバンドが今、世界中で大人気らしい」という情報をもとに、同年2月に東芝音楽工業から日本デビューを果たしたのであります。

ということで、ドイツでマイボニーが発売されたり、それがブライアンの知るところになった1961年当時、日本ではそんなドイツのシングルなんてブライアン以上に誰も知る訳がないのであります。

さて、いよいよ本題です。

しかーし!なんとこのシングル、東芝からビートルズが日本デビューする2年近くも前、1962年4月(5月説もあり)にポリドールレーベルを発売する日本グラモフォンから密かに発売されていたのであります。そのタイトルは当時大ブームのツイストの名を無理やりくっつけて「マイ・ボニー・ツイスト」、気になるクレジットは・・「トニー・シェリダンと彼のビート・ブラザーズ」!

トニー・シェリダンと愉快な仲間たち扱いです(笑)。当然ながら日本でも「誰それ?」扱いだったのでしょう、まったく売れることもなく(現存率からすると売れてないことは間違いなし)、あっさり市場から消え去ったのであります。そこにある「彼のビート・ブラザーズ」が後のビートルズである事など市場はもちろん、発売した担当者すら知る由もなかったことでしょう。当時の状況を伝えるわずかな手がかりが当時の音楽雑誌『ジュークボックス』1962年5月号に残されています。そこにはこう説明されています。

「ドイツのツイスト・レコードが登場しました。歌うトニー・シェリダンの素性ははっきりしませんが、その名もビート・ブラザーズという一党

をひきいて、なかなかイキのよいツイストをきかせます」。

まさかその一党が2年後にレコード会社にとって超ドル箱になるとは、日本グラモフォンの人も想像だにできなかったでしょう。

その2年後、1964年2月になりその一党が東芝音楽工業からビートルズとして華々しくデビューしたのち、その事実気づいた日本グラモフォンはとっくの昔に廃盤にしまっていた「マイ・ボニー・ツイスト」(DP-1254)をすでに古臭くなっていったツイストの文字をはずして「マイ・ボニー」とタイトルを変え、演奏・クレジットはもちろん「ビートルズ」にすぎ替え、ジャケットも大々的にビートルズの写真にすりかえて、カタログナンバーもDP-1351に変更し再発、あの「マイ・ボニー・ツイスト」(DP-1254)は完全に忘れ去られてしまったのでありました。

解説がやたら長くなってしまいましたが、問題の1962年発売のオリジナル「マイ・ボニー・ツイスト」(DP-1254)は、当然ながら超絶激レア盤となっています。あくまで体感ですが、おそらくこの世に20枚くらいしか現存してないのでは？と思われるます。ちなみに再発と異なり、冒

頭イントロ部分の歌詞はまだ英語ではなくドイツ語です。事情の知れた中古レコードショップでは仮にあったとしても二束三文で売られている可能性はゼロです(そもそもレアすぎて市場にまず出てきません)。しかしながら、ビートルズの名がないからこそ、詳しくない人がみるとそんな価値があるなんて想像だにしないでしょうから、いまでもどこかの旧家で、あるいはどこかのレコードには詳しくないリサイクルショップで、何の価値もないレコードとして1枚100円くらいの汚ない段ボールの中に眠っている可能性はあるのです！なんとも夢があるでしょう？

ビートルズ日本盤コレクターならみんな、この「マイ・ボニー・ツイスト」(DP-1254)がひょっこりと現れるのを夢見ながらリサイクルショップなんかの100円レコードの詰まった汚い段ボールをゴソゴソ漁るのであります。わたしもかれこれ30年以上漁ってきましたが、奴はまったくシッポすら見せないものであります。あまりにレアなのでプレミアレコードとしても出てくることはほとんどないのですが、昨年とうとうわたしは大枚をはたいてプレミア価格で購入してしまいました。「汚ない段ボールから100円で」の夢はどうとう叶いませんでしたが、後悔はありません(笑)。



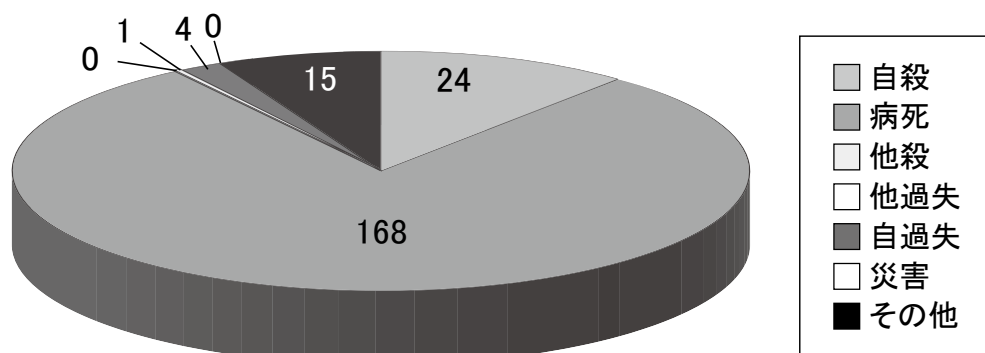
ちなみにこの「マイ・ボニー・ツイスト」、1986年に復刻盤が発売されていますのでご注意ください。復刻版のカタログナンバーは(DDI-13029)でオリジナルに比べて赤っぽい印刷になっています。オリジナルはカタログナンバー(DP-1254)でジャケットはオレンジ色です。もし見つけたら・・・ただのレコード一枚ですが、出すところに出せば中古車一台くらいには化けますので、興味のある方はリサイクルショップあたりでぜひ探されてみてはいかがでしょうか？

P.S. もうかなり前、1990年ごろの話ですが、名古屋で中古・安レコードとして700円で売られているのを見つけた方がいらっしゃるそうです。ほら、探してみたくありませんか？(笑)

死体検案数掲載について

山口県警察管内発生 of 死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Mar-23	24	168	0	1	4	0	15	212

死体検案数と死亡種別 (令和5年3月分)



表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。
 アナログ写真、デジタル写真を問いません。
 ぜひ下記までご連絡ください。
 ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会総務課内 会報編集係
 E-mail : kaihou@yamaguchi.med.or.jp